

# 先進的なまちづくりで稼ぐ町

～茨城県境町へ研修視察にいきました～

7月3日、邑楽郡町村会による研修視察として、茨城県境町を訪問しました。

境町は、大泉町と災害時相互応援協定の締結や職員の交換交流など、日頃から深い関係を築いているそうです。私自身も境町の橋本町長とは、会議等でご一緒しておりましたのでお会いできるのを楽しみにしておりましたが、エストニア共和国へ自動運転EVバス関連の海外出張中のため不在でした。境町では、Auve Tech(オーブテック)社製の自動運転バスを自治体として初めて導入されています。



当日は、境町副町長の野尻氏（元茨城県職員）、議会議長の倉持氏、まちづくり公社社長の野口氏の3名に、坂東太郎グループの高級料亭「板東離宮」にて出迎えていただきました。

昼食を共にしながら、境町の「まちづくり」を丁寧にご説明いただきました。皆さまとても気さくで、率直な意見交換ができました。



## 【財政破綻寸前からの逆転劇】

境町は人口約 2 万 4 千人の小規模自治体ですが、かつては深刻な財政難に陥っており「誰も町長をやりたがらない」とさえ言われていたそうです。

そこへ現れたのが、橋本正裕町長です。橋本氏は 2003 年に役場を退職後、町議会議員選挙に初当選。2011 年には全国最年少の 35 歳で議長に就任しました。

そして、2014 年に町長初当選を果たしました。その後、2018 年、2022 年に再選し、現在 3 期目です。



【境町 橋本町長】

橋本町長が就任前の 2014 年の町の貯金は約 7 億円でしたが、2023 年には 49 億円にまで増加しました。一方、2014 年の町の借金は 172 億円でしたが、2024 年には 149 億円まで減少しています。

これはふるさと納税による収入増等、収入を増やす施策が成功したことが大きな要因となっています。コストカットに関しても、公用車を中古車に変更、電力会社の見直し、水道事業の見直しなど、財政面の立て直しが効果を上げました。これにより、小中学校給食の半額補助、最大 3 万円のおむつ・粉ミルク代の補助、予防接種の補助、20 歳までの医療無料化などが実現しました。



## 【ふるさと納税がもたらす効果】

2014 年の境町のふるさと納税はわずか 6 万 5 千円でしたが、2019 年には一気に 30 億円に上り、2023 年にはなんと 99 億円に成長しました。企業版ふるさと納税では、2016 年に全国 1 位となり、翌年以降も上位の実績です。ちなみに、明和町では私が町長就任時の 2014 年のふるさと納税は 125 万円ほどでしたが、2024 年には 5 億 5 千万円となっています。

橋本町長は内閣府が主催した「企業版ふるさと納税に係る大臣表彰」にて、受賞事例を紹介する際に「財政の立て直しを図る中、境町の収入を増やす施策に転じる柱になったのが企業版ふるさと納税」と述べました。

境町は 99 億ものふるさと納税がありますが、これは寄附扱いで財政収入額不算入となるので、地方交付税も国から交付されます。

## 【補助金の活用術】

ふるさと納税事業について伺うと、実務は約 10 名の職員で企画し、実施はすべて業者へ委託しているそうです。これにより行政は疲弊することなく、高い事業効率とスピード感を維持しています。凄いシステムを構築されています。

また、ふるさと納税を目的に店や工場を造る際には、国の補助金を使って売れる物を作るというセオリーがあります。坂東太郎や銀座おのでらグループ、愛知県のうなぎ業者など、全国の有力企業が境町に工場や加工場を展開しています。町の支援と補助金制度を活用しながら「稼ぐ仕組み」ができ上がっています。



### 【ふるさと納税特設サイトより】

例えば、境町では乾燥いもを生産して雇用人口を伸ばし、利益にもつなげています。原料となる芋は町外からも取り寄せ、冷蔵保存によって年間を通して供給できる体制を整え、ふるさと納税の返礼品として提供しています。こうした取り組みにおいても、工場や

店舗の建設に補助金を活用しています。また、単にふるさと納税で収入を得るだけでなく、地域産業の振興にもつなげる考えを持ち、企業との連携に取り組んでいます。

このように、境町の“稼ぐ力”は凄まじく、町全体が株式会社の形をとっているかのようです。明和町も、こうした先進的な取り組みを参考にしながら、できるところから一歩ずつ進めていきたいと思いました。



【銀座おのでら 第1食開発拠点施設】

## 【県からの権限委譲が半端ない！】

境町と明和町で大きく違う所として、茨城県は市町村への権限移譲が進んでいることです。そのため、境町は開発から建築まで町内で完結できて色々なことをスピーディーに進め、完結することが出来ます。

実際に、新築の戸建賃貸住宅に 25 年住み続けると、土地と住宅を無償譲渡で持ち家化できる「マハロタウンハウス」など、町独自の住宅政策もスムーズに実現しています。

また、茨城県の開発における環境アセスメント義務は 75ha 以上（栃木県も 50ha 以上）であるのに対し、群馬県では 20ha 以上から必要となるなど、制度的にも事業展開がしやすい仕組みになっています。

## 【子育て支援日本一を目指す英語の町】

境町は、フィリピン共和国マリキナ市と姉妹都市協定を結んでおり、マリキナ市から町立のこども園や小中学校に外国人英語教師を受け入れています。

姉妹都市を結んだところから教師を派遣した場合、費用の半分以上が地方交付税で補填されるので、その仕組みをうまく活用して教育の充実や子どもたちの学力向上を支えています。



## 【行政と議会の連携】

今回の研修視察の案内をしてくださった倉持氏は、10 年以上議会議長を務めているそうです。倉持氏は「私の議会には野党はいません」と笑いながら話していました。補助制度にも精通しており、議会が町の施策を後押しする体制が整っているそうです。議会と行政が同じ方向を向いている点も境町の強みです。



また、まちづくり公社社長の野口氏は、広範囲にわたる事業内容を的確に把握されています。もともとご実家は猿島茶で知られる茶葉屋を営まれていたそうですが、現在はまちづくり公社の運営に尽力されているそうです。

### 【研修視察中のおもてなし】

## 【隈研吾のデザインがあちこちに！】

境町には、世界的建築家・隈研吾氏がてがけた公共建築物が7作品も存在しています。まさに「隈研吾ワールド」で、境町の魅力の一つとなっています。

そのきっかけは、橋本町長が隈氏と偶然出会い、「是非、境町に作品を」と熱心にお願ひしたことからはじまったそうです。橋本町長のバイタリティーには恐れ入ります。

また、橋本町長の祖父・橋本正士氏もかつて境町の町長を務めており、こうした人脈や地域への思いも橋本町長の力となっているのだと感じます。明和町も境町のように、活力あるまちづくりを目指して努力していきます。

境町の皆様、温かく迎えていただきありがとうございました。



【隈研吾氏が設計した建物等】

令和7年7月31日

明和町長 富塚もとすけ